

続 学校点描

『挑戦の自由』が本校の今年度のテーマです。生徒個々の様々な挑戦の姿を見ると大人の方の挑戦も考えます。

《M中学校》

NO.11

R6. 9. 19

担当：校長

9月5日（木）にS市民プラザ（大ホール）を会場にM地区中学校高等学校弁論大会が開催されました。3年生のI・Hさんが暗唱の部に、3年生のK・Tさんが弁論の部に、2年生のI・Tさんが弁論の部に出場しました。放課後などALTのピーターの指導を受けながら努力しての参加でした。結果、K・Tさんが優良賞、I・Tさんが優秀賞に入賞しました。3人の努力と挑戦心に拍手です。

9月10日（月）にM山市民会館にて少年弁論大会の最北大会が開催され、O・Yさんが優秀賞となり9月21日1の国際交流会館で開催される県大会への出場を決めました。次は県代表への挑戦です。

9月6日（金）今年度もY大学地域教育学部教授音楽教育教授のS・K先生と5名の音楽専攻の大学院生をお招きし、午前中は3年生の合唱指導を、午後は全校生徒に向けた“山っ子コンサート”を開催していただきました。途中、一緒にリズムを手拍子したり踊ったりのプログラムも入れて、音楽の楽しさを工夫して伝えてくれました。飛び入りした柏倉先生の普段とは違う声色にも驚いていたようです。

目を覚まさせてくれた人

第一章

「最近の言葉で『親ガチャ』という言葉が一番嫌いです」と、テレビの中である政党の総裁候補に立候補した政治家の人が言っていました。「わたしだったら何だろう？」そう考えて出てきた言葉が『マウントを取る』でした。“マウントを取る”とは、相手よりも優位に立ちたいがためにとる言動を表しています。自分の考えが一番正しいと思っているため、自分の意見を人に押し付けたいという心理から“マウントを取る”が生まれているのだそうです。

第二章

友人のAさんが体験したある駐車場管理人さんの話を聞きました。Aさんは、

自分の事務所の近くに駐車場を借りていたそうです。

その駐車場には、初老の雇われ管理人がいました。定年退職後、その駐車場の管理人として働き始めたそうです。Aさんが駐車場を利用するたびに、その管理人

の老人はいつも笑顔で「おはようございます。今日も

いい天気ですね」と声をかけてくれました。通常なら駐車場が満車になると、

“満車”と書いた大きな看板を入りに置くだけです。けれどその老人は、“満車”になると、入りに立って、入ろうとするドライバーひとり一人に「申し訳ありません。満車です」と頭を下げるのだそうです。そんなとき、必ずと言って



いいほど「どうせ雇われ管理人だろ！なんとかしろ！」と暴言を吐きながらクレームを言うお客がいます。自分はお金を払う側だ、お前より上なんだとマウントするわけです。それでも、管理人さんは、頭を下げ続けます。マウントを取った運転手は「ちえっ」と言って、立ち去りました。管理人のおじいさんは、その車が見えなくなるまで頭を下げ見送っていたそうです。Aさんは、それを見ながら、「そこまでしなくてもいいのに」と思ったそうです。ある日、車を止めてあいさつをすると、おじいさんは「今週いっぱい辞めます。いろいろお世話になりました」と言いました。奥さんが病気になったらしいのです。Aさんは、残念に思いながら、最後の日に感謝の手土産でも持っていこうと決めたそうです。

第三章

朝、通勤途中で、Y宮公民館を過ぎたあたりの信号機のところを、生徒が横断します。信号機のある交差点です。車は、青信号に変わるまで停止します。ある一人の本校の女子生徒が横断し終わると、赤信号で止まっていた両側の自動車に向かって丁寧にお辞儀をしていました。小学校からの習慣かもしれませんが、その丁寧なお辞儀に、なんだかドライバーの心の持ち様を教えられた気分になります。



イメージ写真

最終章

Aさんが着いたとき、小さな管理人室の周りには、たくさんの若者であふれていました。管理人室の中も外も、たくさんの手土産や花束でいっぱいだったそうです。一人ひとりが、雇われ管理人の老人に感謝のお礼をいったり、握手したりしていたそうです。Aさんは、その時の状況をわたしに語りながら、こう言いました。

「人を上から見ていた自分の目を覚まさせてくれた人なんだよなあ」と。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。